

令和7年度第1回八幡市総合計画検討懇談会会議録(要旨)

○日 時：令和7年5月26日（月） 10：00～12：00

○場 所：八幡市役所 5階 会議室5-1

○傍聴人：0名

○内 容：

- 1 開会
- 2 出席者紹介
- 3 部長あいさつ
- 4 議事
 - (1) 第5次八幡市総合計画第8次実施計画（案）について
 - (2) 意見交換
- 5 その他
 - (1) 懇談会でいただいたご意見について
会長と事務局で調整の上、事前にいただいた意見を含め、主な意見を実施計画に掲載する。また、議事録を市ホームページ上で公開する旨、了承。
 - (2) 次回懇談会について
八幡市まち・ひと・しごと創生検討懇談会を秋頃を開催する予定。

○懇談会委員意見・質疑等【基本目標（章）ごとに要旨をまとめて記載】

【基本目標1（第1章）ともに支え合う「共生のまち やわた」について】

- 委 員：自治会の加入率を増加させるため、若者の自治会への勧誘を行っているが、加入することのメリットを聞かれることが多く、回答に苦慮している。
- 会 長：自治会加入のメリットが平時には出にくいと考える。例えば、阪神淡路大震災の時には住民同士が助け合い、被災の規模を抑えられた地域があった等、災害時等有事に機能することがある。
- 委 員：自治会加入のメリットを記載したパンフレット等を作成・配布し、勧誘しやすい環境を整えるとともに、未加入者へ自治会への理解を深めてもらってはどうか。
- 委 員：自治会の課題として、若者が加入しない傾向にあるため、高齢化しており、自治会活動に支障が出ている。また、若者が地域に関わる場面はこども会くらいしかない印象。
- 会 長：自治会だけでなく、地域に関心のある団体との連携が重要だと思う。引き続きそのような団体との協働を深めてもらいたい。
- 委 員：市として自治会への加入率が減少している要因について、どのように考えているか。

事務局：人口減少・少子高齢化や核家族化はもちろんのこと、戸建か集合住宅かといった居住形態、地域のキーパーソンがいるかどうか等が大きく関係すると考えている。また平常時において基本的には、加入しなくても生活に支障のない環境が整っているため、特に若い世代が加入するメリットを感じにくいことも要因ではないかと考えている。

委員：若者はメリットより、すぐに役が回ってくる等のデメリットを気にしていると考えるため、加入者が減少している自治会の再編を検討してはどうか。また、若者の人口流出の抑制に繋げるため、こども会と連携し、若者に参加してもらえる地域活動を検討してはどうか。

会長：自治会の加入者の減少や高齢化等により、自治会の活動を不動産管理会社等の業者に委託している事例もある。

委員：自治会の加入者を確保するため賃貸住宅に入居した際、加入がマストの自治体もある。

委員：若い人は、こども会等地域のイベントに参加することは、楽しみである一方で、そのために役を担うことに対して負担感を持っているのではないかと。また、その負担感は、昔と生活形態が変わり、共働きや子どもの習い事の送り迎え等が増えていることが要因であると考えます。

委員：仮に自治会を廃止した場合、どのようなデメリットが生じると考えるか。

事務局：その地域の課題を一定のまとまりをもった団体としてとりまとめ市と折衝する機能がなくなってしまうことで、例えば、道路の状況等の地域の実情が伝わりにくくなったり、防災備蓄等に影響が出たりすることが考えられる。

委員：自治組織団体を小学校や中学校単位に再編する等、加入の敷居を下げる取組を検討してはどうか。

【基本目標 2（第 2 章）子どもが輝く「未来のまち やわた」について】

委員：今年から始まる放課後学習教室「まなびーず」について、実施したことにより、どれだけ学力が上がったか測れたら良いと考える。

委員：市の学力を上げるための具体的な取組を教えて欲しい。

事務局：放課後の自学自習の場づくり、学習の意欲はあるが経済的に塾に通うことが困難な児童生徒のためのスタディサポート事業等を実施している。

委員：学力も一定大事であると考えますが、学力以外のことも力を入れられれば良いと考える。

会長：学力以外の指標を設定しても良いのではないかと。

会長：全国学力・学習状況調査結果が低い要因は何か。

事務局：追跡調査ではないので、年によって結果にバラツキが生じてしまう。また、学校によっては昨年より向上したという学校があると聞いている。

会長：子どもたちが自主的に集まれる場所はあるか。

事務局：放課後の自学自習の場を拡充しようとしているところ。また、生涯学習センターや市役所市民プラザにおいても子どもたちが集まっているところを確認している。

委員：子どもたちが集まれる場所を設置する際には、子どもたちが通いやすいよう、場所に配慮して設置して欲しい。

委員：勉強が得意な子ども、苦手な子どもがいる中で、全員が放課後に勉強に取り組むことは難しいのではないかと。基本的には学校授業において適切な学習指導が完結されることを願う。子どもが好きなことや得意なことに取り組める環境の整備も必要だと思う。また、受験においても国語・算数の試験が必須ではなくなりつつある。

事務局：学校授業の改善については引き続き京都府教育委員会で取り組んでいた必要があるが、市教育委員会としても、子どもの選択肢を増やすという観点で様々な取り組みを進めている。

委員：現在の指標では、「子どもの生きる力＝学力」になっていると感じる。学力以外のスポーツや文化芸術等の指標があれば良いのではないかと。

【基本目標 3（第 3 章）誰もが「健康」で「幸せ」な「健幸のまち やわた」について】

委員：若い年代にも運動習慣の定着を図ってもらうために、若者向けに運動啓発や運動の場の整備を検討してはどうか。

委員：健康づくりに関しては、概ね取り組んでいると思う。

委員：高齢者の健康イベントの参加者は、女性が多く、男性が少ない傾向にある。高齢者の健康づくりに性別の視点を置くことも検討してはどうか。

【基本目標 4（第 4 章）自然と歴史と文化が織りなす「観幸のまち やわた」について】

会長：八幡は石清水八幡宮等豊かな文化資源に恵まれていると考えるが、観光によるまちづくりが全国各地で行われている中、その魅力は埋もれて来ていると感じる。今一度、八幡の強みである文化資源の希少性を見直し、さらにそれを活かした取組をされてはどうか。

委員：ふるさと納税の視察に行く中で、先方からは文化資源を活かした体験型イベントを推奨される。住んでいると気づかないが、市外からすると魅力的な文化資源が豊富にある。八幡の観光イベントは単発的なものが多いため、地域全体の観光振興施策として、それぞれのイベントを相互に連携させた取組をしてはどうか。

委員：観光入込客数はどのような方法でカウントするのか。

事務局：各イベントや施設毎に集計している。

会長：石清水八幡宮駅前の整備は時間が掛かるが、今まで継続して実施しているイベント等の見直しをして良いのではないかと。

【基本目標 5（第 5 章）しなやかに発展する「活力のまち やわた」について】

- 会 長：大学では自治体から産品づくり等協力依頼がある。農業者の減少を抑制するため、若者が農業に興味を持ってもらえるような様々な取組を検討されたい。
- 委 員：市内では起業する人が少ない印象。京田辺市と同程度であった商工会の会員数も少なくなっており、京田辺市で起業される方が多い状況である。加えて、高齢化で廃業が相次いでいる状況である。それに伴い商工会の会員数も減少が続けている。新名神高速道路の全線開通や石清水八幡宮駅前の整備等まちの開発を待たず、八幡で起業する方を増やす取組を検討して欲しい。

【基本目標 6（第 6 章）持続可能な「安心・安全のまち やわた」について】

- 委 員：若者にとって地域に繋がりがいいことが長期的に見てデメリットになる一方で、自治会への加入等地域に繋がることが煩わしいと考える若者も増えている。安心安全な暮らしを実現するためにも、現代社会にマッチした、お互いの顔がわかる程度の緩やかな繋がりを醸成するようなまちづくりに期待したい。
- 委 員：若者の人口流出を抑制するような魅力あるまちづくりに期待したい。
- 委 員：若者だけでなく高齢者も住みやすいまちづくりをして欲しい。また、八幡の魅力や特色をもう少しはっきりと打ち出して欲しい。
- 委 員：若者が八幡を離れても、その若者が八幡を「ふるさと」として愛着を持ち続けたいようなまちづくりをして欲しい。